

(仮訳)

関防企連第1208号
令和4年2月16日

横田基地第374空輸航空団副司令官
ジュリー・M・ガウリン大佐 殿

北関東防衛局企画部長
坪倉 幹男

CV-22のホバリングに係る配慮について (要請)

日頃から、当局の防衛行政への貴職の御理解と御協力に感謝申し上げます。

横田飛行場北側ヘリパッドにおけるCV-22のホバリングから生ずる近隣住民への影響への配慮を要請するため、本書簡を書いています。

当該住民(家族を含む)は、CV-22が横田飛行場に正式配備された平成30年10月頃から、当局に対し頻繁に、ホバリング時の騒音や振動等による被害の苦情を申し出ています。これまでの苦情の主な内容は次のとおりです。

- 家屋から公道と基地内道路を隔てて約100mのところホバリングをしており、このような近接した場所でのホバリングは他では考えられない。
- ホバリングは通常18時頃から開始され、22時過ぎまで続くことがある。
- ホバリングの騒音や振動のせいで家族との会話が出来ず、また、ヘッドフォン無しにテレビを観ることは出来ない。
- ホバリングの振動が原因で家屋の壁にヒビが入った。
- ホバリングの風圧により基地内の小石等が家屋の敷地内に飛んでくる。
- ホバリングの騒音等が原因で体調を崩し通院したことがある。

直近では、本年1月12日、当該住民の妻から、その前日においては22時頃までホバリングが続いたため生活に支障をきたしているとの苦情を受けました。

当局は、貴軍による飛行訓練は、パイロットの技能の維持・向上を図る上で必要であり、また日米安保体制の円滑な実施のため重要であると認識しています。そのため貴軍が、横田飛行場において、公共の安全に妥当な考慮を払いつつ軍隊として必要な活動を行うことは認められています。

一方、当該住民からの苦情は主に、家族がくつろぐ時間帯において会話ができない程度の騒音が数時間にわたって継続するという内容であり、これは、他の航空機の離発着に伴い一時的に生じる騒音に対する苦情に比べるとより深刻であり、何ら

かの措置を執る必要があると考えます。また、当該住民からの苦情を受けた瑞穂町も当局に累次、かかる現状を改善するよう要請しています。仮に現状が改善されない場合、これまで周辺地域から得られていた横田飛行場に対する理解と協力が損なわれかねないことを懸念しています。

つきましては、貴職においてはこうした事情を十分ご理解頂くとともに、当該住民に対する影響を最小限に抑えるため、原則として、CV-22のホバリングを昨年10月に工事が完了した基地中央に位置するヘリパッドで行い、北側ヘリパッドでは行わないといった抜本的な措置を講じるよう、改めて特別の配慮を要請します。

なお、横田飛行場に配備されているCV-22の運用は第353特殊作戦群の指揮下であり、指揮系統のうえでは第374空輸航空団の責任にないことは承知していますが、貴職のリーダーシップにより好意的にご検討の上、返信頂けますようお願いいたします。

(共) 宮本徹 議員 資料要求

2 9日のレクにおいて、横田基地でのCV22オスプレイのホバリングについての貴省北関東防衛局企画部長名での横田基地副指令官あての要請（本年2月16日付）に対し、米側から説明があったとの説明を受けた。

ア) 回答の内容を示されたい（全文を提供）。

イ) 回答は、いつ、どのような方法で、誰に対してなされたのか等、回答に関わる事実や経過等を示されたい。

ウ) 回答を受け、いかなる対応をしたか、経過と内容を具体的に説明されたい。

(答)

【ア) について】

○ 米側から

- ・ CV-22オスプレイの訓練が北側ヘリパッドで行われている理由は、南側ヘリパッド付近で追加工事が行われているためです。
- ・ ヘリパッド周辺には工事現場の作業員がいること、建設機器やがれきの存在等、安全上の懸念から、現在、第21特殊作戦中隊と第374空輸航空団は南側ヘリパッドのみで完全な訓練を行うことが出来ません。
- ・ 該当工事は、今後大きな遅れが発生しない限り、今年の秋頃までに完了する予定です。
- ・ 工事完了後については南側ヘリパッドが使用可能な時は訓練場所を変更しますが、どうしても任務遂行のために乗員の即応性を維持する必要があることから、今後も北側ヘリパッドの使用は継続して行われる可能性は排除されないこととなります。
- ・ 新たな情報が分かり次第、追ってご報告させていただきます。
- ・ 皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

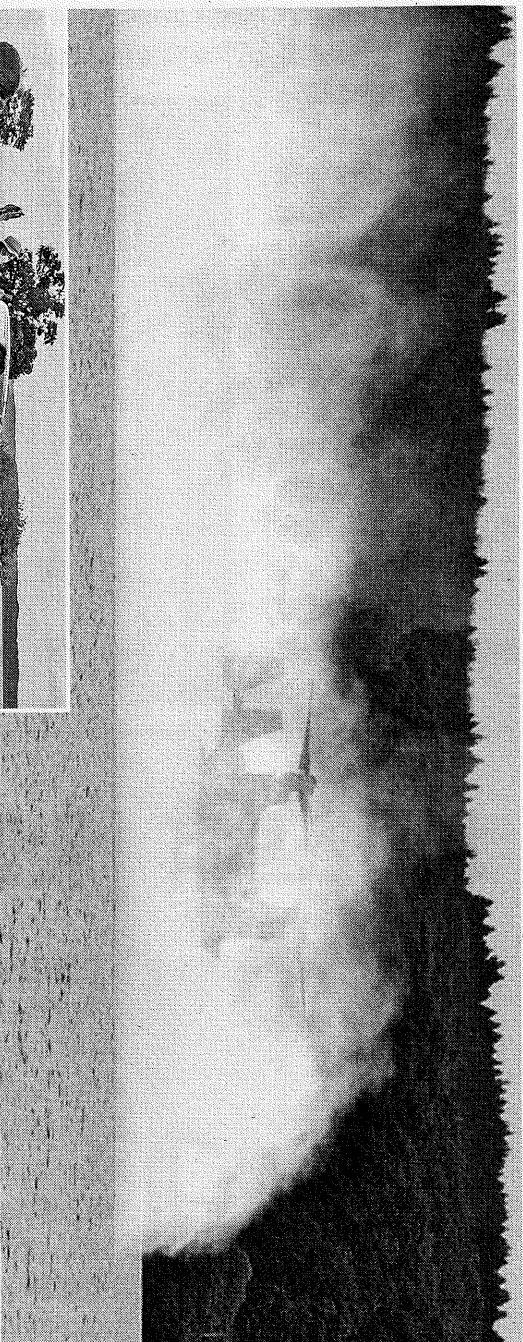
との回答がありました。

【イ) について】

○ 米側からの回答については、本年5月24日に北関東防衛局に対し、メールにて回答がありました。

【ウ) について】

○ 米側からの回答を受け、同日、北関東防衛局から地元自治体に対し、米側から回答のあった内容をお知らせしました。



①水しぶきで機体全体が濡れるほど超低空飛行をする米軍機オスプレイ三機8月10日、青森県東北町
②オスプレイの訓練を現地調査する和泉都議（左）と尾崎都議（右）

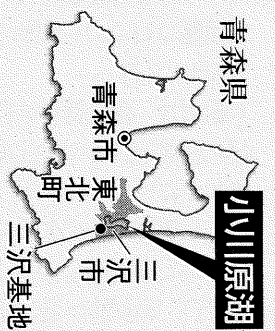
横田基地（東京都横田市）の米軍機「オスプレイ」が超低空飛行（ホバリング）訓練を繰り返して大きな問題になった青森県東北町の小泉（おがわら）湖。1年たった今もわが目の前で危険な訓練は行われ続け、住民や漁業者に怒りや不安が広がっています。（高橋拓丸）

青森・小川原湖

2.22.9.1 赤旗

宝の漁場わがもの顔

米軍横田基地からオスプレイ超低空飛行訓練



小川原湖は、63・2平方キロメートルある青森県最大の湖です。多くの水産資源を要する漁場で「宝沼」と呼ばれ、レジャーに多くの人たちが訪れる観光地でもあります。小川原湖では道の駅で買い物をしてきた東北町の女性（63）は「怖いですよ。また事故が起きて湖に油（燃料）が流れてしまったらと思うと不安です」と話します。

事故続発

小川原湖は、湖畔の一部を米軍三沢基地（三沢市）に占められており、米軍機による事故を経験してきました。1992年には戦闘機の部品16戦闘機のタンク投棄が

あり、このときは地元療養所の警察が1カ月に及ぶました。米軍機「V22オスプレイ」尾崎あや子都議の姿からいによる危険な訓練が繰り返されました。横田基地から飛び立ち、各地で行われている危険な訓練をやめている2021年6月。超低空飛行を繰り返すのを日本共産党の市川俊光都議が撮影し、多くのメディアで取り上げられ、日本共産党やさまざまな市民団体が抗議を行いました。しかし米軍は自衛隊や漁水しぶきが機体全体を覆い隠す超低空飛行を繰り返して、8月に同様の訓練を繰り返しました。

横田基地のオスプレイは、21年6月には山形県男性に見せてもらった湖の空港に、9月には宮城県からの通知には、安全のために漁業・航行を制限すると書いてあります。米軍は22年8月17日、クランツチの不具合を受けていない状況ではないと言います。男性は「誰も何も言わない状況です。米軍は22年8月17日、クランツチの不具合を受けていない」と語ります。

市川都議は、事前告知行中止を決定しました。さすればいくらかでも訓練できる状態になっていると指摘。「連日では救った見れば尾崎都議は、一東難訓練」となっているが、実際には訓練内容は各地で行われている状況が、『敵基地攻撃』のためのもだ。憲法上も、安全環境保護の観点から中止の直前まで危険な訓練を続けていたことは許されません。横田基地のオスプレイ配備中止を求めて都への申し入れなどに取り組みます」と話します。

8月10日に行われた

コースアツア

共産党都議が調査「配備中止を」

響く爆音

横田基地関係者による飲酒を伴う交通事故について（要請）

令和4年8月15日、北関東防衛局から、横田基地所属の空軍人の飲酒運転事案に関する情報として、「発生日時は令和4年8月13日午後3時20分頃。発生場所は福生市志茂35。被害状況は、日本側車両は後部ハッチバックとバンパーの損傷、米側車両は前部ボンネットとバンパーの損傷。発生状況は、交差点で右折をしようとして日本側車両が停止していたところ、米側車両が後方から追突。米側の飲酒運転。双方とも同乗者なし」との情報が東京都及び基地周辺自治体に提供された。

飲酒運転は、人命に係わる重大な事故に繋がるもので、非常に危険かつ悪質であり、基地周辺住民に不安を生じさせるだけでなく、住民感情の悪化を招きかねない。

また、横田基地所属人員の飲酒を伴う交通事故は、令和元年度以降頻繁に発生しており、これまでに計七回に及んでいる。横田基地に関する東京都と周辺市町連絡協議会では、その都度、再発防止や教育及び綱紀粛正を要請してきた。

今回の事故は、その経緯を踏みにじるものであり、極めて遺憾である。

については、下記のとおり、強く要請する。

記

- 1 怪我人の有無、事故の経緯、背景等について明らかにするとともに、飲酒を伴う交通事故が令和元年度以降頻繁に発生していることを踏まえ、基地外での飲酒の禁止等、具体的かつ効果的な再発防止策を直ちに講ずること。
- 2 米軍関係者に対する教育及び綱紀粛正の徹底を図り、再発防止に適切な措置を講ずること。
- 3 以上の対策を速やかに実施するとともに、その具体かつ詳細な内容を関係自治体に情報提供すること。

令和4年8月16日

在日米軍横田基地第374空輸航空団司令官

アンドリュー L. ラダン大佐 殿

横田基地に関する東京都と周辺市町連絡協議会

会 長	東京都知事	小 池	百合子
副会長	瑞穂町長	杉 浦	裕 之
	立川市長	清 水	庄 平
	昭島市長	白 井	伸 介
	福生市長	加 藤	育 男
	武蔵村山市長	山 崎	泰 大
	羽村市長	橋 本	弘 山

都内での米軍構成員による事件・事故

年月日		軍	部隊	飲酒	備考
2008	8.2				
2011	2.23			●	横田基地所属の米兵
2012	2.9				横田基地内の大学で働く軍属男性2人
	4.28	空軍	第374空輸航空団整備中隊		上等空兵
2013	7.14				
2017	5.7	空軍	第374医療群		
2018	1.6			●	米軍属
2019	5.12			●	横田基地所属の軍人
	5.25	海兵隊			
	5.27	空軍	第374空輸航空団	●	
	10.6			●	
	10.27	海軍			横須賀基地所属
2020	7.17			●	
	7.26	空軍		●	空軍兵
	10.6			●	
2021	3.31			●	日米地位協定が適用されるメンバー
	10.21				都内の基地隊員等は関係していない
	10.25	海軍			横須賀基地所属3等兵曹
2022	8.15	空軍		●	空軍人

※委員会提出資料、報道発表資料より作成。

※部隊、飲酒、備考は報道発表資料に記載のあるもの

4. 環境への影響

4. 1 空域

4. 1. 1 提案されている措置

概して、横田飛行場に配備されている航空機は、引き続き、既存の訓練区域・訓練場を使用する予定である。本環境レビューで検討される各案において、新たな空域の設定又は軍事訓練空域の側面境界の変更は求められていない。したがって、本分析は、空域及び航空交通管制（ATC）の許容量を超えないことを確認するため、活動レベルに焦点を当てることとする。

訓練区域における運用

CV-22の配備により、6つの訓練区域（東富士演習場、ホテル地区、三沢対地射爆撃場、沖縄の訓練場、アンダーセン空軍基地、韓国烏山空軍基地周辺のピルサン・レンジ（Pill Sung Range））にわたり、空域使用及び弾薬使用を含む訓練区域における活動レベルが上がることになるだろう。弾薬使用は、少なくとも一部の場所において増加する見込みである。現在承認されている時間帯に行われる予定の訓練は、指定された訓練区域における日程調整に大きく影響するものではないと見込まれる。さらに、弾薬使用は、許容レベル内に収まると予測される。ただし、空軍特殊作戦コマンドは、当該訓練区域において、弾薬使用を含む運用増加予定分に確実に対応できるよう、配備実施前に横田飛行場と調整しなければならない。

管理所要

- 太平洋軍司令部（PACOM）が航空交通管制（ATC）の所要を特定するいずれの場合も、追加のホスト・テナント・サポートについて空軍特殊作戦コマンドと協議する。
- 空軍特殊作戦コマンドは、訓練区域において運用増加分に確実に対応できるよう、配備前に横田飛行場と調整しなければならない。

これらの提言が実施されれば、提案されている措置において空域に著しい悪影響が及ぶことはないだろう。

4. 1. 2 代替案 1

代替案 1 及び提案されている措置について、航空機の数は同じであることから、任務運用上の観点からは両者の間に相違はない。したがって、飛行場運用及びソーティアー、弾薬使用及び人員増加の数は、両案において同一である。提案されている措置に関して特定された提言（人員に関する検討及び空軍特殊作戦コマンドの調整）は、代替案 1 にも同じく

富士山周辺 空中給油3日連続

米海兵隊岩国基地（山口県岩

国市）配備のF35B2ノクス戦

闘機とKC130J空中給油機

が、危険な空中給油訓練を富士

山周辺で14、15日にかけて行い

ました。同機による空中給油

訓練は、3月、6月に続き3回

目で、3日連続確認されたのは

初めて。平和団体からは「住民

が生活している上で、米軍が戦

争のための危険な訓練を繰り返

すのは許せない」と怒りの声

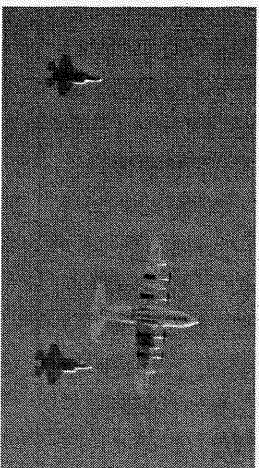
が上がっています。

模擬爆弾投下も

今回、14日午後1時すぎから

始まったKC130J機から

F35B2機への給油訓練を、甲



甲府市上空でKC130J空中給油機とF35Bが行った空中給油訓練
三15日（福田良二さん撮影）

「すごい爆音」平和団体中止求める

府市の福田良二さん（64）が撮

影。京都平和委員会によるKC

C130Jは、午後0時19分

に横田基地（東京都）を離陸し午

後2時40分ごろに着陸。この間、

甲府市をはじめ、大月市から南

アルプス市にかけての出梨県上

空を東西に長いトラック状に旋

回飛行し給油を行いました。

15日も午後0時14分に横田基

地を離陸し午後2時18分まで、

16日は岩国基地から飛来し正

から午後1時49分まで飛行しま

した。

過去2回の訓練では、東富士

（静岡県御殿場、裾野両市と小

出町）北富士（山梨県西瀬沼場

での海兵隊と自衛隊の演習に合

わせて、F35Bが爆撃などで空

から地上部隊を支援する「近接

航空支援」訓練を実施し、模擬

爆弾の投下も行いました。今回

も16日に、東富士演習場で米軍

ジェット機が模擬弾投下訓練す

ることが通告されています。14日

同演習場周辺上空では、14日

の空中給油訓練と同時間帯に、

すでにジェット戦闘機が旋回飛

行しました。御殿場平和委員会

の渡邊希二事務局長は「午後1

時15分ごろからものすごい爆音

がしました。16日の演習通報は

ありましたが、14、15両日はあ

りません。米軍が日本の空を自

由勝手に使っているのは許せな

い」と話します。御殿場市を通

じて同演習場を管轄する陸上自

衛隊富士学校に問い合わせた

ところ「米軍独自の訓練で承知

ていない」という返答があった

といいます。

F35B配備倍に

岩国基地では今年5月、2個

目のF35B飛行隊16機の配備が

完了し機数が32機に倍増してい

ます。米海兵隊のF35Bの訓練

・準備マニュアルでは、操縦士

には実機の飛行で夜間を含め空

中給油訓練が年3時間、近接航

空支援訓練が年4・5時間課せ

られており、配備数の倍加が訓

練の激化につながっています。

安破破壊山梨県実行委員会の

菅原三郎事務局長は「住民が生

活している頭の上で、危険な空

中給油訓練をすること自体が許

せないし、地上の敵を攻撃する

とんでもない訓練と運動して行

われていることに怒りを感じま

す。この事態を知らせ、米軍の

横暴をやめさせるんだかひを伝

げたい」と話しています。（佐藤つよし）